



企画展

建具解体新書
ほどく・くむ
The Anatomy of Tategu
The Work of Traditional Japanese Joinery Revealed

1 | 重要文化財本隆寺本堂棧唐戸 部分

開催情報

名称	建具解体新書 ほどく・くむ
会期	2025年3月8日(土)～5月11日(日)
会場	竹中大工道具館 1F ホール
開館時間	9:30～16:30 (入館は16:00まで)
休館日	月曜日(祝日の場合は翌平日)
入館料	一般700円、大高生・65歳以上の方500円、中学生以下無料 ※常設展観覧料を含む
主催	竹中大工道具館、伝統建築工匠の会
協力	(一財)全国伝統建具技術保存会
補助	令和6年度日本博2.0事業(補助型) (独立行政法人日本芸術文化振興会/文化庁)
公式サイト	https://www.dougukan.jp/special_exhibition/tategu

お問い合わせ

「建具解体新書 ほどく・くむ」展広報事務局(竹中大工道具館内)
〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
TEL: 078-242-0216 FAX: 078-241-4713
E-mail: tategu@dougukan.jp

開催趣旨

空間を間仕切る扉や戸。これら「建具」は毎日何度も開け閉めをして、触らない日がない、頻繁に使われる建築装置です。特に、神社仏閣などの文化財建造物の建具は、建物の長い歴史とともに開閉が繰り返されてきました。数百年経ってもなお、機能し続ける建具。その長持ちの秘訣とは。

本展では、解体することで見てくる建具の内部構造と損傷した材を補修して機能を再生する修理の技に着目し、ユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」を構成する「建具製作」の伝統技術に深くメスを入れます。見えないところにこそ仕事を凝らす建具師の真髄をご覧ください。

展示の見どころ

江戸時代の建具の内部構造

普段は目にする事のできない建具の内部構造。今回は特別に、国宝や重要文化財建造物に用いられていた建具の古材や原寸模型を出品します（扉・戸4点、部分模型3点）。解体することで詳らかになる、建具に秘められた仕掛けを間近でご覧いただけます。

1厘^{*}を揺るがせにしない修理の技

数百年間使用されてきた建具に、あと100年の命を吹き込む修理の技。どこを修理したのかわからない状態にするのが通常ですが、今回はあえて修理部分がはっきりとわかる修理模型を出品します。部材の状態をひとつひとつ見極めながら建具を再生する匠の技を、映像とともにご覧いただけます。

*1厘=0.3mm



2 | 重要文化財本隆寺本堂唐戸

建具に合わせて自作する建具道具

たくさんの小さな部材を組み合わせてゆく建具製作では、部材のわずかな幅の違い、角度の違いが建具全体では大きな違いを生じさせます。そのため建具に合わせた道具を揃えるところから仕事が始まります。精度を求めるが故の、大工道具とは一味違う建具道具のこだわりをご覧ください。



3 | 鉋

工匠の技を体験する

展覧会開催を記念して、職人と専門家による講演会やワークショップを開催します。秘められてきた建具の内部構造、伝統建具の修理の世界を、直接聞いたり、触れたりすることで、さらなる理解が深まります。

主な
展
示
品

- 1,2,4 京都女子大学鶴岡研究室蔵
- 3,7,8 個人蔵
- 5 全国伝統建具技術保存会保管
- 6 全国伝統建具技術保存会蔵

*特に記載のないものはすべて旧部材

総展示品数：約 30 点



4 | 重要文化財本隆寺本堂棧唐戸 部材



5 | 国宝本願寺御影堂部戸 部分



6 | 重要文化財龍光院盤桓廊唐門棧唐戸 (復原)



7 | 重要文化財黄梅院本堂舞良戸 (復原)



8 | 建具の仕口模型 (復原)

関連イベント

※イベントの日時・内容は変更になることがあります。
最新の情報は「建具解体新書
ほとく・くむ」展公式ウェブサイトにてご確認ください。

講演会

講演会

「伝統建具の魅力～修理で出会う先人の技」

日時	2025年2月23日（日・祝） 13：30～15：00（13：00開場）
場所	竹中大工道具館 1F ホール
講師	鈴木正（選定保存技術保持者（建具製作））、 鶴岡典慶（京都女子大学教授）
参加費	無料（別途入館料が必要）
定員	先着80名（ウェブサイトからの事前申込制）
英語通訳	ご希望の方は2/1（土）までに予約ページにて✓を入れてください

WEB申込
のみ

ワークショップ

400年前の古材でつくる香合

開催日	2025年3月15日（土）
場所	竹中大工道具館 B2F 木工室
監修	鈴木正（選定保存技術保持者（建具製作））
講師	窪野良信（京都府文化財保護課伝統技術職員）

ワークショップ

棧唐戸の技術を使ってつくる波型角皿

開催日	2025年4月12日（土）
場所	竹中大工道具館 B2F 木工室
監修	鈴木正（選定保存技術保持者（建具製作））
講師	片桐努（京都府文化財保護課伝統技術職員）

※ワークショップにつきましては、詳細が決まり次第、公式サイトにて更新いたします。（年明け予定）

関連イベント
申込方法

公式サイト (https://www.dougukan.jp/special_exhibition/tategu) 内より
お申し込みください。



当館のご案内



日本で唯一の大工道具の博物館「竹中大工道具館」は、大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて後世に伝えていくことを目的に設立されました。

常設展は7つのコーナーに分かれており、唐招提寺金堂組物の実物大模型、五感に響くハンズオン展示などを通して大工道具の魅力をお伝えします。

また博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じてもらえる場」となっており、建物の各所には大工や左官、瓦師などによる伝統の職人技をちりばめました。

シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかくつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんでいただければ幸いです。

アクセス



山陽新幹線「新神戸駅」改札口より徒歩約3分
 市営地下鉄「新神戸駅」北出口2より徒歩約3分
 シティ・ループ「12 新神戸駅前(1F)」下車徒歩約3分
 神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分

広報用画像

- ・画像データ1~8 (JPEG) をご提供いたします。メールにてお申込みください。画像データをメールにて送信いたします。
- ・画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさないでください。
- ・掲載記事・番組内容について情報確認のためにゲラ刷り、原稿の段階で下記事務局までFAX送信ください。
- ・お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに1部ご寄贈願います。

その他

- ・読者プレゼントとして本展図録5部または開館40周年記念限定チケットペア (2枚) 5組を提供することができます。
- ・その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。